

平成27年度 第3回 和光市協働推進懇話会 会議録

日 時： 平成28年2月18日（木） 14時30分～16時30分

場 所： 和光市役所6階 603会議室

委 員：

学識経験者	◎平 修久（聖学院大学政治経済学部学部長） ○谷本 有美子（公益社団法人神奈川県地方自治研究センター） 庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）
市民団体を代表する者	竹村 幸子（和光生ごみ市民会議）
公共的団体を代表する者	萩原 尚（和光市自治会連合会） 野川 希代子（和光市社会福祉協議会）
和光市協働推進庁内調整委員会	前島 祐三（和光市政策課）【欠】
和光市協働推進ワーキング	中岡 貴裕（和光市生涯学習課）

◎会長 ○副会長

事務局：市民環境部 本間・市民活動推進課 内田・中川・新坂・大竹

傍聴者：1名

1 和光市における協働事業の検証

■「新倉ふるさと民家園管理運営業務委託」の検証

（ゲストスピーカー：和光市古民家愛好会（新倉ふるさと民家園管理運営団体） 田中氏、別所氏、高倉氏）
和光市生涯学習課（新倉ふるさと民家園管理運営担当課） 副主幹 鈴木一郎

【事務局】市内の市民活動団体と市において現在行われている、協働型委託の「事例」を懇話会で検証し、委員の皆様からの助言等を得ることにより、検証対象となる協働事業について、より良い事業へと発展を促すことを目的とする。また、今回の検証結果をもとに、市における他の協働事例に対し、モデルケースとして紹介していくことについても、併せて目的とする。まず、「検証シート（団体用）」の「事業の概要」について事務局より説明を行う。説明後、団体から提出された「報告・説明資料」をもとに、団体より事業全般について説明を行う。団体の説明の後、担当課からの補足説明を受け、事業の検証を開始する。検証方法については、「検証シート（団体用・行政用）」を事務局から項目毎（黒丸の項目毎）に説明し、項目毎に委員により意見交換及び助言等を行う。

【古民家愛好会代表 田中氏より、新倉ふるさと民家園開園の経緯と、現在の事業の進め方を報告】

1. 新倉ふるさと民家園開園の経緯

- ・市が、かつて市内にあった古民家を復元し、ボランティアの市民団体を設立して管理運営を行う方針を打ち出す。平成17年度、ボランティア養成講座を開催。
- ・市民による運営委員会の発足にあたり、委員を10名募集。応募者7名を委員とした（平成17年12月）。任期は2年。委員会の任務は、古民家での講座やイベントの企画・運営や利用案内の検討、運営委員会の会則等の作成。

- ・平成18年1月、「和光市新倉ふるさと民家園市民運営会議」の会則を定め、市民運営会議設立。イベント部会、広報部会、自然環境保護部会、管理修繕部会の4部を置く。
- ・平成18年6月、「新倉ふるさと民家園の管理運営業務委託契約」を締結。平成18年6月17日開園。

2. 和光市古民家愛好会と改称し、再スタート

- ・平成19年7月11日、「和光市新倉ふるさと民家園市民運営会議」を「和光市古民家愛好会」と改称し、会の充実と透明性を意識した新たな会則を定め組織の充実を図った。
- ・会則と主な内容としては、
 - (1)事業を行うため、部会を置くことができる規程を設け、別途、「部会規程」を制定した。環境部会、情報部会、行事部会を設置し、部会の役割等を定めた。
 - (2)組織の構成は、登録されたサポーターをもって構成する。
 - (3)運営委員を設置し、運営委員及び役員の選出について規程した。運営委員は9名。そのうち、正副代表それぞれが、各部会に所属している。
 - (4)会議は、定期総会、臨時総会及び運営委員会とした。
 - (5)日常の管理等を行うため、常時勤務する有償サポーター「常勤サポーター」を置くことを定めた。別途、「常勤サポーター運用規程」を制定し、常勤者の選考、任命、任期、解任、職務、勤務時間、報酬等について定めた。常勤者の職務はマニュアルに基づき行う。また、毎月常勤者会議を開催し、連絡調整会議及び運営委員会の状況を報告し、情報を共有化。管理運営の円滑化に努めている。

3. 協働事業の推進

平成22年度から協働による管理運営を行うため、愛好会と市との関係や役割分担、相互協力の内容等について定めた「管理運営業務に関する協定書」を締結。

「協働」として、事業を始めた当初と比べ、今はこの事業を協働により実施することの意味を強く感じている。

主な管理上の報告を月1度の連絡調整会議でしている。市の担当者や若い方が色々な提案を出来るよう、バランスを心掛けている。

報告は以上となるが、今日はアドバイスなりご助言をいただき、今後活かしたいと思っている。

【生涯学習課】毎月1回連絡調整会議を開いており、非常に良い状況。イベントの関係だけでなく、建物の様子についても常に見てもらっているので、故障などの連絡など報告もすぐもらうことができ、保全もしやすい。

【事務局】ありがとうございました。これ以降、検証に移る。事前に団体及び担当課に記入してもらったシートの、事業内容と成果を読み上げるので、意見交換をして欲しい。

【庄嶋委員】実は、ここに来る前にふるさと民家園に立ち寄らせていただき、雰囲気良く分かった。サポーターの方が案内してくださり、来園者が年間1万人程度と聞いた。「数にはこだわっていないが、カウントはしている。」とのことだが、どのようにカウントしているのか。

【団体】サポーターが来た人の数を時間帯で分け正の字でカウントしている。

【野川委員】成果指標とは数値目標の達成度か、来園した人の満足度か。

【事務局】他の協働事業提案制度で使用した評価シートをもとに今回の懇話会向けに作成したもの。

提案制度の評価シートでは、数値か満足度かは担当課と団体の皆さんで事前に話し合って決めている。

【庄嶋委員】最初に説明していただいた事業の内容になるが、現在サポーターが62名おり、3つの部会がある。サポーターはいずれかの部会に所属する仕組みなのか。

【団体】部会長は運営委員になっている人。運営委員もどこかの部会に属する。それ以外に一般のサポーターの中から、普段活動にかかわっている方に部会に入ってもらおう。今年、情報部会ではパソコンのプロで若い人がメンバーになってくれ、ホームページも新しくした。

【庄嶋委員】市民運営会議という形で立ち上がった時、委員は10名以内とのことだったが、愛好会に代わってからも運営委員は10名以内か。

【団体】10名以内で現在は9名。

【庄嶋委員】運営委員は市長から委嘱されているのか。

【団体】市長からの委嘱ではない。サポーターの中から運営委員を総会で選出する。監査は一般のサポーターの中から選出している。役員の選び方は透明性をしっかり定めている。

【庄嶋委員】サポーターが会員のような形で、自主的な組織となっており、その中から運営委員を選んでいるということか。

【団体】市民運営会議は市が指導して作り上げた。会長が誰になるのかという規程がなかった。会長はやりたい人が手を挙げ、選んだ。

【庄嶋委員】サポーターから会費をとっているか。

【団体】会費は年間1000円。更新は3月末。会費を納入することで継続としている。

アンケートについてだが、野川さんからの質問があったように、数より質の問題と考えている。古民家のアンケートをとっても、美辞麗句がほとんど。「指摘」など運営の参考になる意見が欲しいので、アンケートのやり方も検討中。もちつきは多くのお客さんが来た。来すぎてても対応ができないのでPRを制限するようにしている。情報担当として情報公開をコントロールしている。求めていくのは質。数が多いから良いとは思っていない。今までやってきたことを反省しながら、お客様の声を反映させていきたい。

【谷本委員】役所からの委託業務ということだが、行事はすべて決められているのか。

【団体】行事はABCに分けられている。Aは伝統的文化行事。Bは文化的季節行事。他にも古民家に合うイベントを企画している。

【谷本委員】団体の方で予算の範囲でやりくりしているのか。

【団体】委託料500万は多く見えるが、常勤者は有償ボランティア。常勤者は、毎日のトイレ清掃や植栽の剪定、そして月1回、一時間半の清掃をしている。こういった作業の件費の他、高木の選定は業者への委託になり、500万の中から出している。

【谷本委員】事業目標の設定をされていないとすると、これだけ大きい委託額ということで、市民に使い道が見えなくなってくることが考えられる。来園者がこれくらいいる、というアピールもあると思うが、数字をわかりやすく見せていくやり方もあるのではと感じた。「この費用をこれだけ効果的に使っています。」つまり「団体が担っているからこそ、これだけのことができています。」というアピールになるという一面もあると思う。

【団体】いろんな団体のHPを見ているが、どんなことをやったか、どういうことをやるかの計画一覧表や内容は載せているが、経費を載せているところはない。税金を使っているので、透明性は大切。運営も会の中で監査している。

今の状況で年間49回行事をしていて公開。その他に学校の受け入れをしている。

【平委員】次は、協働の結果について意見をいただきたい。

【竹村委員】インターネットでホームページを開いているということだが、作成費は無料か。また、イベントの参加費用は無料か。それともいくらか参加者から徴収して運営しているのか。

【団体】ホームページは、開設当初から、独学で勉強していた一人のサポーターが担当してくれていたが、更新が滞るようになり、その方に健康上の問題が起きたら運用に困ることになるという懸念があった。調べてみるとホームページのリニューアルは業者に頼むと10万円くらいはかかるということだった。特別その予算を計上していなかったのでサポーターの方をお願いした。

【竹村委員】費用は予算に入っているか。

【団体】ホームページのリニューアル予算を取っていなかったため、予算全体の中で対応しソフト代を会から支出した。新しいサポーターの方が、ホームページ作成ソフトを購入してくれば作成してくれるということになり、購入費用の1万4~5千円を会で支出し、サポーターの方に作成していただいた。

2点目の「事業」について、市でやっている事業、例えばつるし雛教室や藍染め教室、そば打ち体験などは材料費、当初から計画している事業に対して講師謝礼の予算は計上してある。教室では300~700円の参加費、収穫祭などでは販売したものの売上金がある。

【竹村委員】ボランティア保険についてだが、団体が損害保険に入っているのか。

【団体】常勤者13人でローテーションを組んで、2人が常時勤務をしている。この常勤者についての保険は市の委託料の中に含まれている。

【萩原委員】民家園は茅葺き屋根だが、茅の葺き替えについてはどうしているか。

【生涯学習課】当初から長期計画を立てている。屋根に関しては30年。市の3年ごとの計画の中で29年度くらいには部分的な屋根の葺き替えは計画している。

【団体】部分的に傷んだところを補修していけば、4~50年もつのではないかと業者からは聞いている。白川郷を特集したテレビ番組では30年に1回だと言っていた。他の古民家を運営している団体の話を聞くと予算取りが大変だそう。和光の全面葺き替えは何千万とかかる可能性がある。日常の管理と手入れが大切だ。

【谷本委員】担当課からの話では、管理運営が第一の目的、という印象がある。

【生涯学習課】新倉ふるさと民家園は指定文化財になっている。それを守っていくことが第一。それから昔からやっていた民族行事の復元をお願いしている。あくまでも文化財の保存が目的で、それをお客さんに観てもらおうということをお願いしている。

【谷本委員】担当課は管理してくれればいいという考えの一方、団体は、運営するのならばお客さんの満足度を追求していく、となると、問題が生じてくると思う。段々と担い手の方とかみ合わなくなってくるのではないかと気になった。

【野川委員】古民家のすぐそばに新倉児童館があり、新倉児童館と共催事業をやっているのは子どもたちに好評である。また、子どもが保育園で古民家の見学してくると大変喜んでいる。満足度が高いことは、今後、アピールの素材となるのでアンケートを取ることを考えていただけたらと思う。

【竹村委員】出来たばかりの頃から皆さんが努力している。門をくぐったところで周囲の世界と違う。皆さんの「熱」を感じる。一般に来た方にアンケートをとっても「良かった」とか「素晴

らしかった」などの言葉しか出てこないのが現状だと思う。やはり文化財に位置付けられている建物を団体の皆さんが守ろうという気持ちを、市民に伝わるようにするのが団体の役割だと思う。

【 団 体 】 土日は市民が参加し易いので行事がそこに集中するが、事故はいつ起こるかわからない。幸いに起きていないが、常勤者は来園者の安全を考えていかなければいけない。昔の建物だから、段差があるのが当たり前でバリアフリーにはなっていない。そこに小さい子が来てけがをするのも困る。サポーターが骨折をしたことはあり、市には報告はしたが、会の方で対処した。来園者も管理者も年配者であるから、何が起きるかわからない。心肺蘇生法を学んだりしている他、年1回の消防訓練をして消防署から指導を受けるなどその場で最善の対応ができるようにという心がまえだけはしている。収穫祭、麦秋祭、もちつきなどは食べるものを提供しているので食品衛生管理には気をつけている。食中毒や、異物が入っているだけでも問題になっているので、一度でも問題が起きたらそういった事業は実施できない。食品衛生管理マニュアルを定めて、手洗いを徹底するようにしている。チェックリストもある。事故のないようにと食を扱う日にはミーティングとチェックリストで、保健所からの指導を受けて厳しく指導している。

【竹村委員】土日の事業に市の職員は参加しているのか。

【生涯学習課】大きい事業の時は参加し、手伝いをする。

【 団 体 】 収穫祭や麦秋祭、もちつき、大掃除などは市の職員にも参加してもらっている。

【竹村委員】協働ということを考えた時に、新倉ふるさと民家園が文化財であることを周知してもらうことは生涯学習課の目標。いつ来ても市民団体のメンバーがいる、というよりも、市の職員さんが一人でもいると、文化財の保護に力を入れているというように市民には見える。苦情を直接市の職員に言いたい方もいる。忙しいながらも、協働事業なのだから覗いてあげるとするのは大切だと思う。

【中岡委員】土日は大きな行事には何うようにしているが、小さな行事にはなかなか参加できていない状況である。

【 団 体 】 先日のイベントも、休みの日に職員にわこうっちを連れてきていただいた。土日でも都合がつけば職員に参加していただいている。

【庄嶋委員】古民家ならではの行事をたくさん行っているとの話があったが、ボランティアにかかわる市民、この場合サポーターが大勢いてその方々がたくさん力を発揮しているからこれだけの事業ができているのだと思うし、それが最大のメリットだと思う。ホームページの話では、パソコンの専門性のある方が関わっているという話があったが、他にもサポーターの専門的な力が発揮できている事例があれば教えてほしい。

【 団 体 】 伝統的な行事、例えば近々お彼岸がありますが、和光市では伝統的に何をお供えしているか、ということは、親から伝えられたことを営んで来た農家の経験がある人でなければできない。最初に応募した7名には農家の経験がある者がいなかった。兼業ではあるが農家をやりながら代々伝統を受け継いできている方がサポーターに入ってくれた。その方を中心にして常勤者が習っている。その方がいるので古民家にふさわしい事業をやるとうことで自主企画をしている。

【 平委員 】 伝統行事の復元ということで農家出身の方が加わっているとのことだが、記録的なものは残しているか。その方が欠けたときの対処として、映像や文章等の記録があると良い。

- 【 団 体 】 情報部会がお供えしたものを写真に撮っている。何のためにお供えするか等も、引き継げるようにその都度記録をしている。
- 【 平委員 】 その記録は習慣的に取っているのか。
- 【生涯学習課】 担当課が行けない時に写真等の記録をお願いしている。
- 【 団 体 】 毎月の事業報告をしている。その中で、どういう意味でそれをやるのか、どういう風にお供えして再現したかを報告している。
- 【谷本委員】 みなさんの繋がりで新しいサポーターの方を集めていると思う。サポーター募集を広く周知することをどう思うか。
- 【 団 体 】 現在62名で去年は45名だった。17名増えたのは、昨年度初めて、サポーター募集の記事を広報わこうに載せ、それを見てサポーターに申し込んでくれた方がいたためである。しかし、大事なものは現在いるサポーターの方から声を掛けてもらうこと、気心が知れているので大切だと思う。
- 【谷本委員】 知り合いの方に声をかけてというのは、メンバーの中でできることだが、協働事業でやっているの、市の方で広く声をかけて今までご縁が無かった方とご縁が出来ていくというようなことも考えているか。
- 【 団 体 】 今回は知り合いの方が意外に多かった。畑をやっているグループの方が知り合いを誘ってというのが多かった。

・・・「新倉ふるさと民家園管理運営業務委託」の検証が、終了。団体及び生涯学習課退席・・・

■検証シートについて

- 【 平委員 】 検証シートについて意見交換をお願いします。こんなことを書いてもらった方が良い、等の意見をお願いしたい。
- 【竹村委員】 予算が500万円使われているので、それが何に使われているのか市民にも分かるようにしていただきたい。また、満足度の向上については抽象的で書きづらい。数値で表すとすると根拠となるものがないので、答えにくくて困る。
- 【谷本委員】 利用者の意見を聞いていますか、などの質問はどうか。
- 【竹村委員】 それくらいが良いと思う。
- 【野川委員】 一定の数値を超えたところから、満足度は下がり始めると思う。どういう視点で評価すると満足度が上がるかが、わかり易いと良いと思う。
- 【 平委員 】 今回、満足度向上までは担当課としては意図していなかったということだった。今後は事業内容の冒頭部分に行政側として明確に書いてもらったほうが、懇話会で提言しやすい。
- 【野川委員】 様式についてだが、現在、箇条書きになっている。番号の方が行政と団体が見比べやすい。
- 【竹村委員】 1枚にまとめてもらう方が分かり易い。
- 【庄嶋委員】 様式としては、私は良いと思う。意見を聞くにも時間がかかる。我々の会議のスケジュールからいっても、年1回しか聞けないかもしれないがこういう機会があると良いと感じた。
- 【 平委員 】 団体と担当課、お互いに意思疎通が上手くいっているということだが、良い要因は何かということを知る必要がある。本日の報告で分かったことは、団体に市役所OBがいるため、担当課の気持ちを汲み取った対応をしてくれ、それにより良好な関係を築けていること。
- 【谷本委員】 連絡調整会議を定期的に持つという習慣になっているというのはポイントだと思う。改め

て会議を開きましょうというのは敷居が高くなってしまふ。

- 【中岡委員】平成20年から当該事業の担当をしている。異動して3日目で最初の会議に出たが、その時は難しい雰囲気を感じた。その後、お互いに思っていることを言おうということになるべく話し合いをして、このような形になって行った。
- 【竹村委員】田中さんが会長になってから、地元の方ということもあると思うが、地元の行事を良く知っていてそういう行事が積み重なって興味を持って古民家に行くようになった市民も多いと思う。
- 【中岡委員】田中会長になって3年前だが、その前から時間を経るごとに段々良くなってきたと感じている。実感として腹を割って話し合うことは大切。
- 【平委員】検証報告書にあるように良い部分ばかりになってしまっている。書きにくいことも書いておくと後々役に立つ。
- 【竹村委員】書く項目については、市の職員からアドバイスしてもらえるといい。
- 【谷本委員】モデルケースとして紹介、という話があったが、紹介の仕方が大切だと思う。他の協働事業をやっている団体に教えてあげたいようなヒントがあった場合、参考になるような点をヒント集という形で紹介してはどうか。
- 【事務局】協働事業の心得ということで、事例を紹介しながら各課の係長クラスを集めて説明会を開催している。その中で、直接かかわっている担当に話をして行きたいと思う。
- 【竹村委員】私の団体が協働事業として管理運営を行っている市民農園の場合、水路は道路安全課、農地は産業支援課が担当であり、担当課が2課にまたがっている。担当課が2課以上になる場合は内部で連携をとってもらえたら良い。今回「市長への手紙」を書いて、問題について対処してもらった。協働事業では連絡を密にいただけるとスムーズに対応できると思った。
- 【事務局】行政間の問題は、説明会を通じて我々が啓発をしていきたい。

2 その他（報告）

■第2回懇話会における報告について

- 【事務局】第2回懇話会において、委員から質問を受けた、平成27年度実施の協働提案事業「一市民スポーツを目指して～和光市運動場有効利用計画～」の教室毎の受講者数について、別紙のとおり報告する。

■協働推進セミナーの開催について

- 【事務局】協働推進センター主催の協働推進セミナーが3月11日に開催される。「相手を知らなきゃ始まらない！“市民活動×行政”」という題名で、市民活動を行う市民及び市役所職員向けに、講座及びワークショップを実施する。講師は、粉川一郎氏（武蔵大学社会学部社会学科教授）。

■協働事業を執り行う部署に対する説明会の開催について

- 【事務局】平成28年度、市民活動団体との協働型委託事業を実施予定の各担当統括主査に対し、説

明会を実施する。昨年度第2回、第3回の懇話会にて紹介した『和光市版 協働型委託事業のころえ』を参考資料とする。

■共助の取組マッチング事業について

【事務局】『共助マッチングの種』シートを作成し、現在、協働推進センター登録団体に対し、ヒアリングを進めている。

■平成27年度懇話会報告書の作成について

【事務局】懇話会報告書案を事務局で作成し、委員長に確認してもらった後、市長へ報告する、という流れで良いか。

【一同】賛成。